

【国際会議報告】

小売及びサービス科学に関する第10回国際会議

10th INTERNATIONAL CONFERENCE ON RECENT ADVANCES IN
RETAILING AND SERVICES SCIENCE

張 峻屹

Junyi ZHANG

正会員 広島大学大学院助教授国際協力研究科
(〒739-8529 広島県東広島市鏡山1-5-1)
E-mail: zjy@hiroshima-u.ac.jp

今年8月上旬に、欧州小売及びサービス研究学会(The European Institute of Retailing and Services Studies: EIRASS)が主催した“小売及びサービス科学に関する第10回国際会議(以降、EIRASS国際会議と呼ぶ)”に参加したので、この場を借りて会議の様子などについて報告する。

1. EIRASSについて

EIRASSは1992年に、小売及びサービスに関する研究のCOE(Center of Excellence)を目指して、オランダ・エindhoven理工大学(Eindhoven Univ. of Tech.)都市計画研究グループのH. Timmermans教授によって設立された学会である。主な活動としては、年1回のEIRASS国際会議を開催し、Journal on Retailing and Consumer Servicesを毎年4回発行している。EIRASS国際会議では発表論文要約集しか発行しないが、発表の成果をジャーナルに投稿することができる。無論、会議で発表したものでなくとも、ジャーナルへの投稿が可能である。

著者は2000年4月から2001年3月までの1年間、Timmermans教授の都市計画研究グループを客員研究員として訪問したことがあり、非常に学際色の豊かな研究グループであると実感した。この研究グループは、都市デザイン、交通、コンピュータ・サイエンス、都市計画、地理、社会学、人工知能や社会心理学など、異なる分野の約15名の学者を抱えている。主に交通、小売、観光、レジャー・住宅などに関する研究課題を取り組んでおり、その研究成果は世界的に評価されている。その成功の秘訣を尋ねると、チームワークにあると当研究グループの助教授A. Borgersが



写真-1 ポートランド市郊外 Hillsboro の公共交通機関 MAX 駅

説く。

2. 第10回国際会議について

第10回国際会議は、今年8月7日から10日にかけて、アメリカ・オレゴン州のポートランド市に開催された。ポートランド市は、カルソープの公共交通指向開発(TOD)モデルが都市圏レベルにおいて具体化されたアメリカの都市の1つとして知られている。

今回の会議は、3つのパラレルセッションから構成された。そして、世界28カ国から約120人が参加し、合計112編の論文発表がなされた。日本からの参加者は、著者を含む9人であった。発表論文をテーマごとにまとめると、表-1のようになる。

交通関連の研究論文としては、23編の発表があつた。その内訳として、観光・レジャーの8編、アクティビティ・交通行動分析の4編、歩行者回遊行動分析

表-1 トピックごとの論文発表状況

テーマ	論文数
小売 (戦略, マーケティング, マネジメント, 國際化)	23
E コマース	14
方法論	12
消費者行動	11
ブランド	10
サービス・クオリティ	8
マーケティング	8
バーチャルコミュニティと E-retail	4
交通情報サービス	4
ロジスティクス	4
歩行者回遊行動	4
観光とレジャー	4
GIS	3
人事管理	3
合 計	112

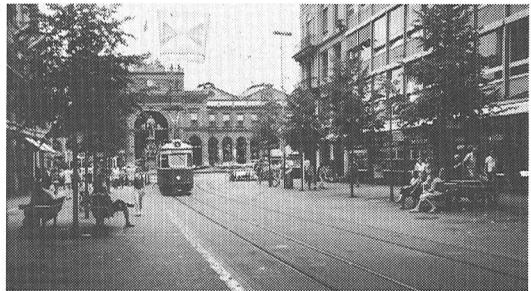


写真-2 発表会場での研究者間交流風景

共交通システムの開発、これらデバイス・システムの利用行動モデルの開発及びその支払意思額の評価に関するものであった。

一方、交通分野以外の発表をみると、消費者のきめ細かなニーズ、消費行動、サービス・クオリティ、供給者側のマーケティング戦略などに関する研究発表が多かった。今日の日本においては、中心市街地や中山間地域などの活性化が叫ばれている。今後、住民や来訪者のきめ細かなニーズを反映した都市・地域サービスをどう提供していくかについて、大いにマーケティング分野の研究方法やアイデアなどを活用する場面があると感じた。このような刺激を受けて、著者は今年から、消費者の期待と満足とのギャップに着目した都市サービスの質に関する研究を始めている。

著者はこの国際会議に初めて参加したが、Timmermans 教授の都市計画研究グループに滞在した時の多くの友人と再会し、また、マーケティング分野を始めとする異分野の研究者と交流して、さらに、幾つかの研究ヒントを得ることができ、自分にとって収穫の多い学会となった。

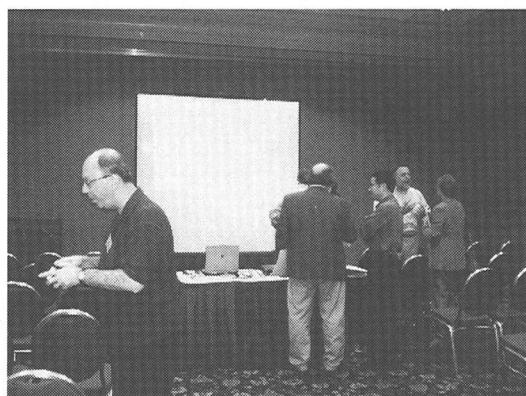


写真-2 発表会場での研究者間交流風景

の4編、ロジスティックスの4編、ITSの3編であった。

観光・レジャーについては、9.11テロ事件後の消費者の旅行意識、GISの観光研究での応用、観光地選択、観光スケジュールモデルやレジャー行動モデルの開発に関する発表がなされた。アクティビティ・交通行動分析の研究としては、モバイル通信とアクティビティ・交通との関係、買物交通や高齢者時間利用パターンの分析などについて発表された。ロジスティックスの発表は主に Third-Party に関するものであった。ITS 関連研究発表は主に、personalized 情報デバイス・システムに着目し、場所限定サービスの提供や車両・歩行者案内デバイスの開発、インテリジェント公

3. TOD 都市に魅了

会議終了後、ポートランド市郊外 Hillsboro に MAX で出かけた。沿線に集合住宅が立地し、各駅に P & R 駐車場が整備され、運行頻度も高いため、週末にもかかわらず、都心部に MAX で出かける人が多かった。都心部に戻ると、無料（一部）の LRT とバスが走っていて、自動車交通渋滞をほとんど見かけなかった。コンパクトに開発された都心部では、トランジットモールの周辺に多彩な店舗が立地し、思わず散策したくなる。発展途上国にこのような TOD 都市をどう展開していくかについては益々興味をもつようになつた。

なっているが、詳細は以下にお問合せ下さい。

4. EIRASS 国際会議の今後の予定

EIRASS 国際会議は毎夏に開催されることになっている。第11回会議は来年7月10日～13日に、東欧で最も美しい都市だと言われているチェコ共和国の首都プラハで開催される予定である。締切は10/15と

Professor Harry Timmermans

Director of EIRASS

E-mail : eirass@bwk.tue.nl

(2003.9.11 受付)